

直接評価の第一歩
基盤力テストの実施と活用に向けた取組

○司会



直接評価の第一歩
基盤力テストの実施と
活用に向けた取組

皆様、おはようございます。これより、山形大学主催、大正大学共催によりますAPシンポジウム「直接評価の第一歩」(基盤力テストの実施と活用に向けた取組)を開催させていただきます。本日の司会進行を務めさせていただきます、山形大学の浅野でございます。皆様、どうぞよろしくお願いいたします。まだ

御参集いただいていない方もいらっしゃいますけれども、時間の関係がございますので、始めさせていただきます。では、まず開会に先立ちまして、会場を御提供いただきました、大正大学学長でいらっしゃいます、大塚伸夫先生にひとこと御挨拶をお願いしたいと思います。大塚先生、よろしくお願いいたします。

○大塚学長

皆様、おはようございます。早朝よりお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。共催校かつ会場校を代表いたしまして、朝の御挨拶をさせていただきます。まず会場校であります大正大学は、昨年90周年を迎えまして、これからあと10年過ぎますと、100周年迎えることとなります。その第一歩の年であるということで位置付けています。本学は、私立大学として設立されて、日本では21番目の大学になります。仏教系大学ということで、皆様多少なりとも御存知だろうと思いますが、本学は天台宗、そして真言宗豊山派・智山派、そして浄土宗の4宗派が共同で運営している大学でございます。普通、宗教系仏教系大学でありますと、一つの宗派で設立するのが大体本筋でございますが、多分世界でも類例のない大学だと思いますね。4つの宗派が共同して運営するというのは、世界でも珍しい大学だと思っております。そういうことで、昨今ダイバーシティというような言葉が聞かれておりますが、どちらかと言うと、男女共同参画というようなところで使われているのが多いようで

ございますが、我々は個人の、あるいは宗派の宗教を超えたところで、ダイバーシティということで、多様性を認めながら共存共栄している大学でもあるということの一つ申し上げておきたいと思えます。

開催趣旨



「大学教育再生加速プログラム」は、高等学校や社会との円滑な接続のもと、入口から出口まで質保証の伴った大学教育を実現するため、先進的な取組を実施する大学等(短大、高専を含む)を支援することを目的としています。

本シンポジウムでは、『平成28年度大学教育再生加速プログラム(AP)「高大接続改革推進事業」—テーマV 卒業時における質保証の取組の強化』の一環として、平成29年度に実施した基盤力テストの分析結果と、その活用について話題提供させていただきます。



1

さて、御存知のとおり、大学教育再生加速プログラムは、高等学校や社会との円滑な接続のもと、入口から出口まで質保証の伴った大学教育を実現するため、先進的な取組を実施する大学等を支援することを目的に、文部科学省が厳しいコンペにより採択を決め支援する事業です。平成28年度の募集をもって、

新規採択は締め切りとなりましたが、本日多くの事例や分析結果を報告する山形大学は、平成28年度にテーマを「卒業時における質保証の取組の強化」で採択を受け、本制度の支援を受けて、77の大学等の一機関として先駆的な取組を進めておられます。

山形大学ではAPの取組として、直接評価の重要性を鑑みて、特に独自に開発した基盤力テストを実施しています。医学部を含む全学部の学生に対して、共通のオリジナルのテストを実施し、これによってアンケートなどで成長実感を知るタイプの間接評価ではなく、学生の能力を直接評価することで、教育成果の可視化を目指しています。こうした取組は実は海外でも類を見ない挑戦的な取組であり、昨今大学に対して強く求められる学修成果の明示、さらには質保証に一石を投じる取組として、大いに期待できるものでございます。

本学もなかなかこの学修成果、どうしたらいいかということで、福島先生、学長補佐の山内洋先生といろいろ相談してやっているのですが、なかなかいい案が浮かんでまいりません。今日は私自身も勉強させていただきたいと思っています。本日はこの挑戦的な取組の成果を存分に御報告いただきます。本APシンポジウムには本当に多くの皆さんの御来場をいただきましたことに、会場校を代表して心より厚く御礼申し上げます。このシンポジウムに続く、午後からのEMIR勉強会も含め、この2日間が皆様にとって実り多きものになりますようにお祈りして、会場校の御挨拶に代えさせていただきます。本日は誠にありがとうございます。